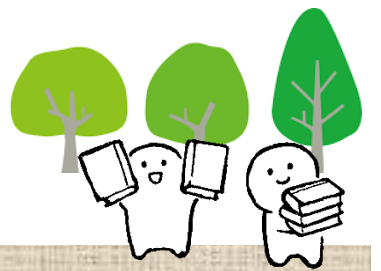




神学校週間によせて

2023年6月25日(日)~7月2日(日)



巻頭メッセージ



「主の委託を受けて一教会と共に一」

城前和徳 九州バプテスト神学校校長(和白教会牧師)

日本バプテスト連盟に連なる諸教会・伝道所の皆様、3つの神学校(西南学院大学神学部、東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校)を覚え、ご加禱、ご支援を感謝申し上げます。それぞれの神学生は教会より遣わされた献身者として、み言に聴きつつ、学びを深くしております。

パウロは「わたしは福音を恥としない」と告白しております。この「わたし」は、パウロ自らが恥としないと断言することを赦されている福音の力の中に呑み込まれるただ中で告白されている言葉であり、自らの明確な信仰告白でありながら、この信仰告白の背後に「わたし」は消えて行くのです。まさにパウロ

自身、福音を宣べ伝えることができるのは、この福音を否定する人々が、福音を恥すべきものとしている状況のただ中で宣言された信仰告白だからです。この告白は、今日の社会状況に対して、かつ、自己保身的な信仰に陥り易い自らへの警告の告白として吟味すべき言葉です。今日、福音を宣べ伝える器として、主イエス・キリストの名によって呼び集められた者としての在り方が問われる思いです。

日本バプテスト連盟は新たな「これからの伝道者養成基本理念」を作成し、第68回定期総会にて可決され、具体的な理念と方策として、伝道者養成の新たな歩みが始まります。神学校も教会の祈りに支えられて、本来の目的である「主に在って・教会と共に・教会に仕える」神学校としての姿勢を確認しつつ、「伝道者養成」の業を互いに協力しつつ推進して行きたいと願います。

神学生の証し①

不安という期待を持って



吉田睿濫(黄イエラム)
西南学院大学大学院
神学研究科修士2年
(松本福音村教会推薦)

シャローム! 日頃より神学生のために祈りいただき大変感謝いたします。5年間の神学校期間を経て卒業まで僅かな時間が残されました。これまで何度か証しを日本バプテスト連盟の諸記事に載せさせていただいたことがあります。牧会の現場へと出ていくことを期待している反面、あらゆる不安要素があり、心配だというような内容も書いたことを覚えております。神学校の学びを通して、それらの不安要素が1つずつ埋められていくと思っていたのですが、今はむしろ埋めるつもり「不安」という領域が、「新しい神学的発見」という響きの良い言葉で広がっている気がします。しかし、このような状況の中でもどこか「不安で良い」と思っています。教会の歴史は、決して「安定、完全」ではなかった。むしろ不安の中だからこそ、その歴史を生み出し続けていたのです。神学校を卒業する条件が安定的で完璧な存在、だからからも良しとされ、イエス・キリストのように生きることができるとして生きているようになることでは決まっています。そう思うようになったとき、期待半分不安半分だったかつての考えが変化し、今は主への期待の中に不安も含まれている気がします。不安だからこそ、弱いものを強きものとしてくださる神さまがともにおられる。罪人だからこそ、救い主イエス・キリストにより頼むことができる。このことを一(いち)も忘れず、私に用意された神さまの素晴らしい計画にへりくだって残りの神学校期間を過ごします。



「神学演習」授業風景

神学生の証し②

喜ぶ人、泣く人と共に



小林亜天子
東京バプテスト神学校
神学専攻科1年
(多摩みぎわ教会推薦)

約20年前、うつ病を得て神に再会し2009年連盟教会に入会しました。教会の出来事やさまざまに経験するたび、皆様の信仰の姿に教えられ育てられました。徐々に何のために生かされているかとの思いに至り、2016年神学本科への入学をゆるされました。神学校の仲間の仕事を持つ者、関東以外や海外在住の人も多いためです。授業では教会志願者以外にも聖書を学びたい方や現役牧師方、他教派の方も集い、学びの成果を持ち帰って証しする願いを共有しています。講師陣も多様で連盟の牧師や他教派の牧師、神学者たちが名を連ねます。受講者は毎回の授業での問いや議論に刺激され、考え込んで夜中に聖書を読み直す喜びをも味わいます。また教会音楽科では賛美について知識と実践の両面で学びと訓練を与えられます。ここ数年、悩み苦しむ賛美者の1人として、貴重な学びの経験に加え恩師方と仲間たちの存在にどれだけ深く励まされ強められたことが。この恵みは計り知れません。この春には多摩みぎわ教会の推薦をいただき、本科卒業後3年の祈りを経て神学専攻科への入学をゆるされました。この間に仕事も住まいも変わり、障がいの方々と共にいる職に就きました。かつて心を病み生きることと恐れられた私が今、彼らと共に自分の生きる余地をも模索していることに、神のわざの不思議を覚えます。誰もが安らげる場ならば私だって安らげるし、逆もまた真です。「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣く」ことを学び続け、考え続けたいと思います。



23年度前期「教会形成論」授業風景

神学生の証し③

学びを教会で生かす



石橋貞男
九州バプテスト神学校
専攻科1年
(門司港教会推薦)

皆さまの神学校への祈りと献金により、私たち神学生の学びができていることを感謝します。私は、仕事を定年で退職したら神学校で学びたいと以前から願っていました。その目的は、私が聖書に関する知識を身に付けたいという個人的なものでした。定年退職後、1年間は何もせずに、今後の人生において何をやるのかを考える時間としました。そして、退職後2年目(2020年度)に、九州バプテスト神学校の本科に入学しました。それは、私が所属する門司港キリスト教会の牧師が辞任し、4月から無牧師となった年でした。この出来事によって、私の神学の学びの目的は個人的なものから、「門司港教会の牧師になるための学び」へと変わりました。そしてさらに、神学校で学ぶうちに、その思いは「門司港教会の」という枠を取り払われて、「神さまに牧師として仕えさせていたいただきたい」というものに変えられました。私が学ぶ中で一番教えられていることは、「教会の大切さ」です。学ぶ前は、信仰は私と神様の一対一の関係だと思っていました。確かにそれもありませんが、「信仰は、教会(信徒の交わり)の中で育つものであり、私たちは教会の交わりの中でイエスさまに出会い、新しく変えられていく」ということを体験しています。今年度から、毎月2回礼拝説教をさせていただいています。また、毎週水曜日の祈禱会を担当する中で、神学校で学んだことを皆で分かち合っています。感謝と喜びの中で学ばせていただいています。



「教義学特講」授業風景

2023年度神学校週間奨励 「キリストに捕らえられているから」 西南学院大学神学部 神学部長 才藤千津子



西南学院神学部、九州バプテスト神学校、東京バプテスト神学校で学ぶ神学生たちが、日本バプテスト連盟の伝道者養成に仕える者たちとして皆さまの熱い祈りの中にあることに、心から感謝いたします。皆さまの献金によって、神学部・神学校の働きは大きく支えられています。

をもった人たちが伝道者として働くことを喜びたいと思います。その際、ジェンダーやセクシュアリティに関する差別の痛みなど、社会的マイノリティの方たちの訴えに謙虚に耳を傾け互いに尊重し合うことは、当然の時代の要請です。また、兼業で牧師をすることや複数の教会で牧師として立つことなど、それぞれの賜物にしたがってさまざまな形で教会に仕えてゆく可能性にも大きく開かれたいと願うのです。これらは、「これからの伝道者養成基本理念」（2023年）の中で確認されています。

現在、世界は日々大きく変化しています。諸教会も、高齢化、出席者の減少、財政基盤の弱体化、教会学校や信徒会あり方の変化など、深刻な問題に直面しており、コロナ以後はますますそれが加速しているようです。そのような中で、バプテスト連盟は、「信徒一人ひとりが伝道者として主体的に教会を担う研修と励まし」の重要性を再確認しながら、引き続き「牧師を含む教役者の養成と継続訓練」にも力を入れていこうとしています。

パウロは言います。「わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。」（フィリピ3：12） 私たちは常に不完全な者です。だからこそ、常に目標を追い求めてゆく生き方へと招かれています。そして、なぜわたしたちが追い求めるのかということ、それは「キリストに捕らえられているから」です。これは、喜びと共にある働きです。

そんな中で、私たちも、自らの変革へと勇気をもって踏み出してゆく必要に迫られています。例えば、これまで私たちがもってきた伝道者についての固定観念「専業、男性、既婚者」といった枠組みから自由になり、さまざまな背景

「新しい伝道者養成基本理念が承認されました」（2023年度神学校週間にあたって）
全国壮年会連合副会長（神学校献金推進担当） 豊永義典（川崎バプテスト教会）

昨年度は壮年会連合からも、連盟の「これからの伝道者養成検討委員会」にメンバーとして加わり、新しい「伝道者養成基本理念」の検討・立案に参画しました。そしてまとめられた理念案は、今年2月の連盟総会で承認されました。

教会の様々な働きをみんなで担う、働きの分担を固定化することなく、信徒の働きがもっと生かされる、このためにみんなで学びに取り組みよう、等のことが盛り込まれています。この理念に沿った具体的な計画は、今年度半ばまでには連盟理事会から壮年会連合に提案される予定です。

2022年度も243教会・伝道所から約1,555万円の神学校献金を献げて頂きました。心から厚く御礼申し上げます。今年度も西南学院大学神学部への入学者がゼロとなり、奨学金を貸与する神学生が減少する傾向が続いていますが、私たち壮年は神学校献金（神学生奨学金献金）を粘り強く、目標額を目指して継続することが、各教会・伝道所からの献身者を生み出す大きな力になっていることを信じています。

新しい理念では「伝道者の養成・支援」は、神学部・神学校での学びを支えることだけに留まらず、献身者を生み出し、学び、赴任、牧師としての継続的な研修という流れのなかで支えていこうと謳われています。連盟理事会との二者協議を継続するなかで、壮年会としての考え方もしっかりと伝えながら、具体的な計画につなげます。

3年前に新型コロナの感染が拡大してから、教会員が教会に集う機会を大幅に制限せざるを得ない中で神学校献金の額は減少したものの、1600万円前後の金額を維持出来ています。コロナ感染の沈静化がみえてきたなかで、対面の活動とWebの活用によって、日常活動を工夫しながら活発にし、早期に2000万円台に回復させるとともに、目標金額の2500万円を目指しましょう。

神学校献金（神学生奨学金献金）の推移

年度	献金額
2013年度	2,292万円
2014年度	2,284万円
2015年度	2,227万円
2016年度	2,235万円
2017年度	2,299万円
2018年度	1,986万円
2019年度	1,944万円
2020年度	1,603万円
2021年度	1,588万円
2022年度	1,555万円

西南学院大学神学部及び東京・九州両バプテスト神学校で学ぶ神学生

神学生氏名（学年、よみ、推薦教会）

【西南学院大学神学部】 5名 <2023年度奨学金貸与者数：5名>

博士前期	原田 仰(2年・はらだ こう・平尾)、吉田 睿濫(黄 イエラム)(2年・よしだ いえらむ・松本福音村)
学部神学コース	奥田 悟(4年・おくだ さとる・東京北)、長尾 基詩(3年・ながお きし・府中)
選科	石原 誠(1年・いしはら まこと・常盤台教会)

【東京バプテスト神学校】 11名 <2023年度奨学金支給予定者数：5名(第1回連盟理事会にて決定)>

神学専攻科	井馬 佐紀子(いま さきこ・仙川キリスト教会)、上原 一晃(うえはら かずあき・篠崎キリスト教会)、遠藤 守(えんどう まもる・鮫バプテスト教会)、柏 雅之(かしわぎ まさゆき・経堂バプテスト教会)、小平 公憲(こだいら きみのり・横浜ニューライフバプテスト教会)、小林 亜矢子(こばやし あやこ・多摩みぎわキリスト教会)、澤田 猛(さわだ だけし・横浜JOYバプテスト教会)、根塚 幸雄(ねづか ゆきお・横須賀長沢キリスト教会)、林 大仁(はやし ひろひと・ふじみキリスト教会)、氷川 英俊(ひかわ ひでとし・百合丘キリスト教会)、舛田 栄一(ますだ えいいち・洋光台キリスト教会)
-------	--

【九州バプテスト神学校】 9名 <2023年度奨学金支給予定者数：1名(第1回連盟理事会にて決定)>

専攻科	浅川 真(あさかわ まこと・香住ヶ丘バプテスト教)、李 守卿(い すぎょん・長崎バプテスト教会)、今里 豪(いまさと つよし・折尾キリスト教会)、甲木 榮(かつき さかえ・自由ヶ丘キリスト教会)、石橋貞男(いしばし さだお・門司港キリスト教会)、篠田裕俊(しのだ ひろとし・田隈バプテスト教会)、海蔵和香(かいぞう わか・都城キリスト教会)、山崎 誠(やまさき まこと・佐賀基督教会)、柚之原かおり(ゆのはら かおり・長崎インターナショナル教会/単立)
-----	--

※九州バプテスト神学校では、2020年度から「牧師・主事コース」を「専攻科」へ名称変更しました。

【神学校献金（神学生奨学金献金）について】

【名称】神学校献金は従来から、西南学院大学神学部（以下西南神学部と略す）で学ぶ神学生（大学院生も含む）の授業料と生活費の一部を支えるため、奨学金という形で用いられてきました。2012年度から連立等の神学校で伝道者となるために学ぶ神学生（東京バプテスト神学校（以下東バプと略す）の専攻科、九州バプテスト神学校（以下九バプと略す）の専攻科、にも用いられることになりました。そこで「神学校献金」の用途を明確にするため、2013年度より「神学校献金（神学生奨学金献金）」という名称に変更いたしました。

【内容】西南神学部神学生には、授業料等の費用として1種奨学金を貸与し、生活費補助として2種奨学金を給付しています。このうち1種奨学金については返還の義務があります。東バプと九バプの神学生には、授業料の一部を奨学金として支弁しており、こちらは両神学校の奨学金規程により返還の適否が判定されます。

【返還】西南神学部神学生の1種奨学金の返還については、2019年度の総会で返済条件が緩和される形で規程が改定されました。従来は卒業後4年以上伝道の業に従事し、卒業後10年以内に1種奨学金の2割以上返還した場合、その残額の返還は免除されました。2019年度在学学生からは、返済期間を15年に延ばすとともに、伝道の業への従事期間が2年以上、4年未満の場合でも、返済額は貸与額の3割または5割が免除されることになりました。詳細は壮年会連合のホームページで規程を参照して下さい。

【献げ方】毎年6月に行われる神学校週間を用いて献金される教会・伝道所が多いと思いますが、年間を通して神学校献金を献げているところも増えています。全国壮年会連合は本活動を積極的に推進していますので、壮年の皆さまにはぜひ教会の皆さんに働きかけていただき、教会全体の業となっていくことを期待しています。「壮年会連合ニュース」などで、各地方連合での壮年の働きを紹介しています。